



第2章 第2次計画策定にあたっての考え方

第1次計画の策定から5年が経過し、平成17年2月の市町村合併に伴い市行政機構は変化し、また携帯小説の登場や短縮言葉の流行など言語文化や読書活動の環境も大きく変わってきています。このような状況のもと、第1次計画に基づいてそれぞれの分野で様々な取り組みが展開されてきました。

第2次計画を策定するにあたり、第2章では、今一度原点に戻り子どもの読書活動の意義と重要性について考え、第1次計画の取り組みの成果と課題を整理します。

1 子どもの読書活動 - 意義と重要性 -

読書は子どもに物語の楽しさや知る喜びを与えてくれます。そして、子どもの想像力や自分以外のものに対する思い、思考力、言葉を使う能力を育んでくれます。読書によって養われる思いやりや生命を大切に「豊かな心」、自分の考えを整理し表現する力、これらは子どもの中で、掛け替えのない宝物となり、生涯にわたってよりよく生きていくための力の源となります。

また、幼い子どもは、物語を語ってもらったり、本を読んでもらったりすることによって、言葉の豊かさや楽しさに触れるとともに、人の温もりや愛されているという安心感を得て、人と感情を共有することの喜びを自然に身につけていくのです。

自分にとって大事な本に出会うことは、生涯にわたって自らを支え成長させてくれる大きな力となります。しかし、たくさんの本の中から、自分が求めている知識や感動を与えてくれる本、自分を支え、育ててくれる本を子ども自ら選び出すのは、たやすいことではありません。大人は、自分に合った本をうまく選べない子どものために、本を選択して手渡したり、選択にあたって助言を与えたりすることを通して、子どもが自分自身で本を選ぶ力を身につけられるように支援していく必要があります。

子どもにとっての読書活動は大切なもので、それを大人が支援していくことも同様に重要なことです。そして子どもがよりよく成長するために欠かすことのできないものといえます。

2 第1次計画に基づいた取り組みの主な成果と課題

第1次計画においては、市立図書館や官民協働（パートナーシップ）による子どもの読書活動推進をはじめとする基本方針や重点プロジェクトを定め、各機関は連携して取り組んできました。ここでは第1次計画に基づいた取り組みを振り返り、アンケートなども参考に主な成果と課題を整理します。

(1) 市立図書館を中心とした子どもの読書活動の推進

【 成 果 】

- ・新刊図書や長く読み継がれている図書、調べ学習のための図書等、児童書の収集・提供を継続的に実施し